

「本の紹介」

『シラス学 —九州南部の巨大火砕流堆積物—』

横山勝三著

古今書院出版 (4500 円)

渡辺一徳¹⁾

標記の本が、10月10日に古今書院から出版された。著者は本会の会員であり、熊本大学教育学部社会科教育学科で教授として自然地理学の地形学を中心に研究と教育を担当されている横山勝三氏である。

横山氏は鹿児島県のご出身で、東京教育大学(現筑波大学)では、学部から大学院まで南九州の「シラス」について研究され、理学博士の称号を受けておられる。氏の研究は、火砕流堆積物とその地形、噴火災害が中心であり、その意味で、この「シラス学」は長年の研究成果とシラスへの想いをまとめられた集大成といえる。素材の中心はシラスの代表として「入戸火砕流堆積物」が中心であるが、阿蘇火砕流堆積物をはじめ海外の火山の例も著者自身のデータに基づき、随所に組み込まれている。

本書は「火砕流に関する地形学の教科書」とよぶべきものであるが、地形学に止まらず、大規模火砕流噴火とその堆積物、および火山災害に関する火山学の教科書でもある。また、本書では「地形」から如何に多くのことが読み取れるかが、きわめて丁寧でしかも隅々まで気配りが行き届いた文章で表現されている。類書がなく、火山の専門家をはじめ、学生、調査業者、行政関係者など幅広く読まれるべき本である。

章立ては、1章：シラスとは何か、2章：シラスの構成物と物性、3章：シラスの分布、4章：シラスの性状と地域的变化、5章：シラスの研究史、第6章：シラス台地の地形、第7章：シラスの堆積過程、第8章：シラスの堆積地形、第8章：シラスの侵食過程と火砕流堆積物の侵食地形、第10章：シラスの噴火と噴火災害、第11章：シラスと黄土がつくる地形の類似性、第12章：シラス文化と火砕流文化、となっている。

ところで、私は横山氏と同じ教育学部において火山学や自然教育について語り合う同僚であり、

日頃から様々な議論や意見交換を行っている。数年前からの彼の執筆の様子も拝見した。彼の執筆の基本は「自分の研究成果と自分の考えでまとめる」ということであつたように思う。このことは「シラス学」という本のタイトルにはっきりと主張されていると感じている。ある図面について、私が「その図は出版社に任せたら」と申し上げても、何日もかけて接峰面図の等高線を天眼鏡を使って納得するまで描かれたり、慣れないパソコンソフトを使って沢山の図表を、苦労され、悩みながらじっくりと作成されていた。本書に図表の引用が少ないことがそのことをよく現している。このような彼の執筆姿勢には、たまたま少し前に阿蘇の本を書いた私にとって反省させられることが多かった。近くで拝見し、若干ではあるが相談にあずかった者として、本書の完成を大変喜んでいる。

蛇足ながら、最近、巨大火砕流噴火をテーマにした「死都日本」という小説が出版され、マスコミなどで話題になっている。火山学界の一部には、この小説が火山災害や防災に新たな問題を提起したかのように騒ぎ立てる人もいる。しかしながら、この「シラス学」では、巨大火砕流の災害に関する火山学的な本質が、著者自身の長年の研究で既に公表された内容として纏められている。研究者は、先人が既に公表している文献などの十分な渉猟を行い、自分の主張が本当に新しいか否かを、認識する必要があることを痛感させられた。

発 行 所	
熊本地学会誌	No. 134
熊本市黒髪2丁目	熊本大学教育学部
地学研究室内	熊本地学会
TEL 096-344-2111	振替 01960-2-5359

1)熊本大学教育学部